シリーズ　あと二口食わせる技術（平成 28 年度 営農改善資料より）

Ⅱ　つなぎ飼い編

～今よりもあと一回多く「給餌回数」、掃き寄せ回数、「飼槽掃除」を増やす！～

つなぎ飼いの採食環境には、次のような特徴があります。

「自分の目の前にあるエサしか食べられない」
→他の牛に邪魔されずにエサを食べられる一方で、エサのある他の場所へ歩いていくことができない。
「飼槽には一度にたくさんのエサを置くことができない」
→フリーストールと比べ、飼槽隔壁をあまり高くすることができない。
「エサと飼槽が、水やヨダレで汚れやすい」
→「エサを食べる」場所と「水を飲む」、「反芻する」場所が同じ。
「飼槽周辺の空気がホコリ、湿気、アンモニアなどでよどみやすい」
→フリーストールと比べ空間は狭く、「排泄」、「敷料交換」なども飼槽周辺で行われる。

つなぎ飼いで、牛達に「あと二口」多く食べてもらうためには、牛の食欲が高まる採食環境を整えることが重要です。
「給餌回数」「掃き寄せ回数」「飼槽掃除」などを今よりも１回増やす検討をしてみませんか。

採食環境の整備　※写真は事例紹介

「新鮮なエサ」を常に食べさせるために

・給餌回数を増やしましょう

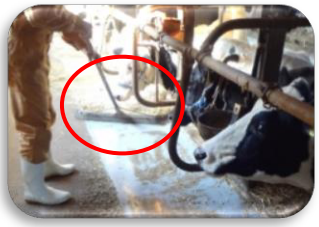
自動給餌機を使い、粗飼料と配合飼料を少量多回給与（放牧期４回/日、舎飼い期６回/日）。
舎飼い期の掃き寄せは、自動給餌機が動いたとき＋αなので、６回/日以上！

・掃き寄せ回数を増やしましょう

朝・夕の給餌と掃き寄せの「１時間後」に、再度掃き寄せをすることで、あと一口、二口を食べさせます。
掃き寄せは６回/日以上！

「キレイなエサ」を保ってあと二口！

・給餌前には飼槽の掃除をしましょう
・水やヨダレなどで汚れた部分も掃除をしましょう



ワイパーと竹ぼうきで細かい残飼も取り除きます。

「キレイな水」を保ってあと二口！

・ウォーターカップは、定期的に掃除をしましょう
・中に入ったエサは、取り除きましょう

メラミンスポンジでこまめに磨き、清潔な容器を保持しています。

「新鮮な空気」鼻面にあててあと二口！

・入気口、排気口を確保し、新鮮な空気を取り込みましょう
・換気扇は冬でもゆっくり回しましょう

冬は牛舎の窓を少し(約５cm)開けたままにします。吹雪の際は、紙袋などを詰めて対応します。